

# 台風災害

# 赤嶺、仁比両議員、田村候補が奮闘！

# 現地に駆けつけ調査、すぐに国と交渉



佐伯市の住宅浸水被害地で被害発生時の水位を指差して確認する赤嶺議員（右）と田村衆院比例候補

この間の台風被害で赤嶺政賢、仁比聡平両議員、田村貴昭衆院比例候補は地元党组织、議員とともに災害地を訪れ調査。地元の声を携え、ただちに政府に働きかけ要求実現へ奮闘してきました。その一端を紹介します。

## 台風23号被害で佐伯市を調査 国が対策を約束

赤嶺衆院議員、田村衆院比例候補、仁比参院議員秘書、加藤純子県議らは10月24日、台風23号で周囲の中小の河川が氾濫し大きな住宅浸水被害が発生した大分県佐伯市に駆けつけ、被災者を激励し被害状況や要望について調査をおこないました。

## 国土交通省に被害原因の究明と抜本的対策を要請

現状をつぶさにみた赤嶺議員、仁比議員秘書は、さつそく高司政文佐伯市議とともに11月5日、国土交通省に対し、「今まで何度も浸水した地域で、住民が対策を要請しているのに改善されていない」と指摘、国として早急に被害原因の解明とともに、被害地域への排水ポンプの設置、番匠川に堆積した泥土のしゅんせつなど、抜本的対策を求めました。担当者は、「今回の被害を受けて対策を再度考える」とのべ、原因究明と水害対策について国交省と関係自治体による検討委員会を開催するとともに、来年度、河川整備計画を策定すると回答しました。

また環境省は、佐伯市が被災者負担としている水害で使用不能になった冷蔵庫、テレビなどの家電リサイクル料金については、市が被災品を一括してリサイクルに出す場合、もしくはは災害廃棄物処理事業として処理すれば、国庫補助対象となると回答。市が処理費用を負担するにしても一割程度ですむことが判明しました。

## 熊本・国道崩落現場調査にマスコミも注目。党の奮闘が町議会で話題になり政府要請へ

台風で幹線道路である熊本県の五木村の国道445号と湯前町の国道219号が崩落し、寸断されて全面通行止めになっている現場を9月、仁比聡平議員、赤嶺政賢議員秘書が調査。現場視察後、湯前町の吉村光町長と懇談。崩落により町道が土砂で埋まり、水道本管が破壊されたこと、人工透析患者2人を含め住民100人以上が219号線を使って球磨郡内の病院を利用しており早急な復旧が望まれることなど、切実な実情が出されました。この調査は、地元「熊日」新聞が写真入で大きく報道しました。

## 党議員要請に国が早期復旧の対策を示す

仁比議員らは、この調査を持ち帰って国会で、ただちに国交内閣、厚労、林野の各省庁に早急な復旧を求めるとも対応をただしました。その中で、両



熊本の国道崩壊現場を県の説明を受けながら調査する仁比議員、松岡徹県議（左端）ら

国道の復旧について、当面2カ月程度で仮設橋などによって開通できるよう準備に入ることに、本復旧にあたって同様の崩落が生じないよう検討すること、心配されていた上水道施設の復旧費用の半分は国負担とし、来月初旬には現地入りして査定することを約束させ、湯前町の復旧事業費の町負担は2%未満にとどめる見通しであることが示されました。

## 「レクチャー報告書」を町議会で読み上げ国の復旧事業を紹介。町長からお礼状も

両議員室は、この回答をただちに「レクチャー報告書」として作成。熊本県委・同南部地区委・党湯前町議などに送付し、

関係者・地元マスコミなどにすぐ報告。地元では湯前町長、五木村役場執行部など町当局に手渡し、湯前町議会で党議員が議場で「レクチャー報告書」を全文読み上げて質問、大きな注目を集めました。町長はその場で「共産党の活動に心からお礼を申し上げる」などと答弁。湯前町では、国会議員を先頭にした機敏な調査団入りや県当局への申し入れ活動など共産党の積極的な活動が話題になりました。これを契機に「地元が何もなくなっていくのか」と町議会の全員協議会で議論になり、町当局・議会共同で政府要請が行われました。

その後、湯前町長からは改めて、一連の党の災害復旧援助に対し、仁比議員に「災害復旧の趣意をお汲み取りいただき、心から厚く御礼申し上げます。町民とともに感謝の意を表します」という「お礼状」が届けられました。

湯前町では党支部がこれらの活動をピラにして町内千数百世帯に配布しました。

●「要望などのお問い合わせは下記にお寄せください。」

ウラ面へ続く